

# 平成 28 年度 北九州市まち・ひと・しごと創生総合戦略 基本目標の進捗状況と今後の取組

## 1 総合戦略の推進に向けた基本的な考え方

本市は、女性と若者の定着などにより社会動態をプラスにしていき、地方創生の「成功モデル都市」を目指すため、平成 27 年 10 月、北九州市まち・ひと・しごと創生総合戦略を策定し、平成 31 年度までに基本目標を実現するべく精力的に取り組んでいるところである。

基本目標の達成状況については、事業の効果が既に現れているものや、現在は効果が現れていないが今後効果の出現が見込まれるものなど、事業の進捗に差があるが、既に目標を達成しているものについては、平成 29 年 4 月の総合戦略改定において目標数値を上方修正した。

今後も、それぞれの事業を推進協議会と連携して着実に推進し、成果を上げることに注力していくものであるが、併せて、事業の成果（KPI）を評価・検証し、結果に応じて総合戦略の見直しを行うことにより、総合戦略の基本目標達成に向けた継続的な改善を行っていく。

## 2 総合戦略における基本目標の進捗状況と今後の取組

### (1) しごとの創出

#### ア 進捗状況

項目	H26 年度	H27 年度	H28 年度	H31 年度(目標)
市内大学生地元就職者数(年間)	814 人	813 人	795 人	1,200 人
市内新規雇用者数(累計)	—	3,378 人	8,510 人	2 万人
空港利用者数(年間)	126 万人	132 万人	140 万人	200 万人 ※1
航空貨物取扱量(年間)	15 千トン	7 千トン	8 千トン	30 千トン ※1
ものづくりと環境エネルギーに関する経済波及効果(累計)	—	891 億円	1,532 億円 ※2	約 9,500 億円

※1 平成 32 年度(目標)

※2 平成 28 年度の実績は、暫定値(一部未確定数値を含む。8 月を目途に確定予定)

## イ 平成 28 年度の主な取組

- 民間就職情報サイトを活用した新卒採用支援
- シニア・ハローワーク戸畑の設置
- フィンテック企業との「生産性向上及び新たな起業促進に関する協定」締結
- 北九州空港にMRJ量産機飛行試験用の格納庫竣工
- 介護ロボット、インフラ点検ロボットの開発・実証支援
- 響灘洋上風力発電施設の設置・運営事業優先交渉者決定
- 地域エネルギー会社の営業（電力供給）開始

## ウ 今後の取組

新成長戦略に基づいた更なる新規雇用創出を始め、学生や第二新卒等の若者に対し、地方で豊かな暮らしが実現できることを紹介するため、生涯賃金や衣食住の経費のシミュレーションを作成するほか、SNS等を活用した広報を推進するなど、本市のしごとやまちの魅力を広く発信する。また、福岡市内の大学生へのアプローチ強化やU・Iターン事業の充実等により地元就職の促進を図る。

さらに、今年度から、本市の産業を担う人材を全校から確保・育成するための奨学金返還支援制度の実施や(仮称)北九州市学園祭 in Tokyo の開催など、若者の地元定着・しごとの創出を図っていく。

「北九州空港将来ビジョン推進強化期間」の2年目に当たり福岡県とも一層緊密に連携し、国際定期3路線や名古屋、季節定期便の那覇を含む国内線の利用促進、路線の安定化に努める。貨物についても、広範囲の集貨や更なる需要の掘り起こしに取り組み、北九州空港の特長を最大限に活かして、貨物定期便の誘致を進めていく。

## (2) 新しいひとの流れをつくる

### ア 進捗状況

項目	H26 年度	H27 年度	H28 年度	H31 年度(目標)
首都圏からの本社機能 移転等(累計)	—	2社	7社	30社
小倉駅新幹線口 年間集客数(年間)	297万人	337万人	344万人	300万人以上
外国人観光客数(年間)	16.7万人	25.2万人	34.9万人	40万人

### イ 平成 28 年度の主な取組

- 株式会社トブコンのトレーニングセンターの新設
- 「ミクニワールドスタジアム北九州」グランドオープン
- “One Health”に関する国際会議の開催
- エリアマネジメントの民間開放(国家戦略道路占有事業)
- 他都市と連携した新たな周遊ルートの開発
- 地域でつくるコト消費インバウンドプロジェクト
- 国際定期3路線(中国(大連)、韓国(釜山、仁川))の新規就航、国際チャーター便の運航
- 船社等への働きかけによるクルーズ船の誘致と寄港おもてなしイベントの開催、ひびきコンテナターミナルで大型クルーズ船の受入れを開始
- 小倉城のライトアップによる魅力向上

### ウ 今後の取組

首都圏からの本社機能等の移転については、新規インセンティブ(補助金・税控除)を活用し、積極的な企業誘致を図る。

また、スタジアムの活用等による新幹線口エリアにおける大規模イベントの誘致を行うとともに、水環境館のリニューアル等小倉城周辺の魅力向上やクルーズ客船の誘致を図り、観光客誘致を強化していく。

### (3) 若い世代の結婚・出産・子育ての希望をかなえる

#### ア 進捗状況

項目	H26 年度	H27 年度	H28 年度	H31 年度(目標)
女性の就業率 ※1	66%	—	70%	70%
ダイバーシティ行動宣言等登録・届出企業(累計)	597 社	697 社	929 社	800 社
合計特殊出生率	政令市 1 位 (1.56)	政令市 2 位 (1.59)	— ※2	政令市トップ クラスを維持

※1 女性の就業率は、25～44 歳の女性就業率を言う。なお、国勢調査をもとに算定するため、平成 26 年度は平成 22 年の国勢調査の結果、平成 28 年度は平成 27 年の国勢調査の結果としている。

※2 平成 28 年度の合計特殊出生率は、10 月を目途に公表

#### イ 平成 28 年度の主な取組

- ウーマンワークカフェ北九州の開設（全国初）
- 「北九州市ワーク・ライフ・バランス推進協議会」を女性活躍推進法に基づく協議会として「北九州市女性活躍・ワークライフバランス推進協議会」へ改組
- 連携中枢都市圏「北九州都市圏域」を構成する自治体の首長が「共同イクボス宣言」を実施（連携中枢都市圏では全国初）
- 子育て環境に関し、NPO 法人の調査で6年連続政令市第1位の評価を獲得
- 「子どもひまわり学習塾」の拡充

#### ウ 今後の取組

さらなる女性の就労支援につなげるため、就労に関する実態調査を実施して現状や課題を分析し、未就業女性人材活用のための戦略を策定する。

29 年4月に民間企業、起業経験者、行政等が連携し「北九州女性創業支援ひなの会」を設立。女性の創業を支援し、創業しやすい環境づくりを推進する。

市内企業等における経営者・管理監督者の意識改革を行い、女性活躍やワーク・ライフ・バランスの推進をはじめとした、働き方の見直しの機運を醸成するため、「(仮称)北九州イクボス同盟」を設立し、加盟企業におけるメリットの充実を図る。また、引き続き様々な機会ダイバーシティ行動宣言等登録・届出企業への呼びかけを行う。

「子育てしやすいまち北九州」を関係部局と連携しながら戦略的にPRし、女性と若者の定着などを促すとともに、「産前・産後ケアサポート」や「ペリネ

「イタルビジット事業」の実施など子育て環境の充実を図り、合計特殊出生率の政令市トップクラスを維持していく。

#### (4) 時代に合った魅力的な都市をつくる

##### ア 進捗状況

項目	H26 年度	H27 年度	H28 年度	H31 年度(目標)
「本市への誇りや自信がある」と答えた市民の割合	57%	54%	58%	80%以上
「安全だ(治安がよい)」と 思っている市民の割合	76%	73%	78%	90%以上
刑法犯認知件数 (人口千人当たり)	政令市 12 位	政令市 13 位	政令市 11 位	政令市で ベスト3
公共施設マネジメント	—	実行計画 策定	実行計画 推進	今後 40 年間で 20%削減※

※ 平成 28～67 年度までの目標値

##### イ 平成 28 年度の主な取組

- 北九州市の良いところなどを語る市民参加型のワークショップ等を開催
- 「北九州の企業人による小学校応援団」と連携した学校支援事業の拡充
- 第 1 回北九州国際漫画大賞を実施
- 「安全ベストを着て集まった最多人数」の世界記録達成
- 小倉と黒崎に繁華街魅力づくり推進協議会を設置
- 安全・安心まちづくり市民大会の開催
- コンパクトシティ形成に向けた「立地適正化計画」等の策定
- 公共施設マネジメント 5 ヶ年行動計画の作成

##### ウ 今後の取組

市民のシビックプライドの醸成や地域情報の効果的な浸透を図るとともに、本市の多様な魅力を市内外に情報発信し、魅力ある都市イメージの定着を図る。

防犯活動の参加者拡大や本市の刑法犯認知件数の減少など、安全・安心条例行動計画の目標を達成するため、事業者や学生等の自主防犯活動の活性化を図るとともに、本市の安全・安心に関する取組を市内外へ発信する。また、警察、関係団体等と連携し、安全・安心なまちづくりを推進する。

「北九州市公共施設マネジメント実行計画」を着実に推進し、進捗状況の的確な把握及び評価を行う「5ヶ年行動計画」を更新するなど、PDCAサイクルにより実効性を確保する取組を進める。

### 3 その他の取組

#### (1) 国家戦略特区について

本市は、平成28年1月29日、国家戦略特区に指定され、7つの特例を活用し、11の事業を実施している。

介護分野では、「介護ロボット等を活用した『先進的介護』の実証実装」として、昨年8月から2つの施設で介護現場の作業観察や作業分析等を行うとともに、7機種14台の介護ロボットを導入した。また、同年11月には山本幸三大臣が視察された。

雇用の分野では、「シニア・ハローワーク戸畑」が昨年8月にオープンし、就職者数は一昨年と比べ30%以上増えている。

また、エリアマネジメントの民間開放として、昨年5月のG7エネルギー大臣会合にあわせて井筒屋周辺の道路で開催した「クロスロードマルシェ2016」をはじめ、市内5箇所でオープンカフェやマルシェを実施し、延べ約170万人の来場者があるなど、まちの賑わいの創出を図ることができた。

今後とも、「介護ロボット等を活用した『先進的介護』の実証実装」や「シニア・ハローワーク」、「エリアマネジメントの民間開放による賑わいの創出」などの取組を継続的に実施するとともに、新たな規制緩和の提案や本市のインバウンド増加に寄与する「民泊」、地元産ぶどうを使った「ワイン特区」などの取組を積極的に進める。

#### (2) 地方創生加速化交付金を活用した事業について

平成28年度の地方創生加速化交付金の主な実績は、以下のとおりである。

##### ア 介護ロボット産業の振興

○介護事業者の介護ロボット導入経費の一部を助成

##### イ 若者の定住や移住促進

○「北九州市すまいるクラブ」の開始

○「住むなら北九州市！応援団体」制度の開始

○お試し居住の実施

- 移住希望者の相談対応として、東京事務所に相談員を、北九州市にコーディネーターを設置
- 「北九州ライフ」HPの運営
- 移住セミナー・イベントへの参加
- メディア掲載
- 高校生や大学生等を対象に、地元企業の仕事内容や地元大学のゼミ等について直接体験できる「北九州ゆめみらいワーク」を実施

#### ウ 広域連携事業（世界遺産関連8県11市）

- 世界遺産案内ガイドの養成
- 世界遺産登録関係自治体で共同制作情報発信広報ツールの開発

### （3）地方創生推進交付金を活用した連携事業について

平成28年度の地方創生推進交付金の主な実績は、以下のとおりである。

#### ア 「かんもん海峡都市」観光まちびらき・形成連携事業

- 関門PRムービー及び関門アプリの制作
- 門司港レトロ地区及び下関地区の夜間景観を周遊するバスの運行
- インバウンドにつながる海外の映画・ドラマ等のロケまたはロケハンの誘致
- 新たな関門ブランドとなる商品、サービスを広く募集する「関門ブランディングコンテスト」の開催
- 「かんもんスイーツ総選挙」にて、HP上でスイーツの人気投票をし、人気の高いスイーツに投票した人の中から抽選で景品を贈呈
- 「関門プロジェクションマッピング」の実施

#### イ 連携中枢都市圏「北九州都市圏域」による『きりん』の輝き推進事業

- シンボルデザイン及びPRパンフレット・ポスターの作成
- PR動画を活用したプロモーション
- 首都圏でのPRイベント開催
- 北九州空港を基点とした周遊ルートを策定し、情報発信ツールを制作・掲載
- 国内関係者、韓国人パワーブロガーを対象としたファミツアーの実施
- 世界遺産案内ガイドの養成
- 連携市町における産業観光資源等の調査及び特設観光案内ブースでの連携市町の産業遺産等の案内

#### ウ 北九州市版「生涯活躍のまち」形成事業

- 市内企業の潜在的な求人ニーズとセカンドキャリア希望者とのマッチング
- 介護職員の負担軽減を目的とした介護現場の作業観察・分析と介護ロボット等の介護現場への導入

#### エ 「そうだ！北九州で働こう」若者の地元就職促進事業

- 地元企業でのインターンシップ実施

これらの事業は概ね順調に実施できたことから、その実績等を踏まえ、今年度も地方創生事業として効果的に実施する。

### (4) 地方創生拠点整備交付金を活用した事業の推進について

#### ア 小倉城周辺魅力向上事業

小倉の歴史・文化を生かした居心地の良いおもてなし空間を創出するため、小倉城の物販等の施設整備や天守閣内の展示リニューアルを行う。

これにより、小倉城エリアにおけるにぎわいの創出や観光客の回遊性向上、滞在時間の延長による消費の拡大などを図る。

#### イ 旧安川邸利活用事業

戸畑区の夜宮公園に隣接している安川家の旧邸宅とその周辺を市の新たな観光拠点として改修・整備するため、意匠、耐震調査や建築、駐車場、外構工事を行う。また、整備後は、民間活力を活用した喫茶や飲食の提供等により、世界遺産等との周遊性を高めるとともに、インバウンドの取り込みを図る。

#### ウ 水環境館魅力向上事業

小倉城周辺にある水環境館について、設備更新等にあわせ、子ども連れ、周辺商業施設の買物客、市外や海外からの観光客などが、館内でくつろぎ、飲食のできる休憩エリアを整備することで、滞在時間の延長を図り、小倉都心の更なるにぎわいづくりにつなげる。